

Hitachi Solutions Create

HITACHI

生成AI導入を任されたあなたへ

生成AI導入完全ガイド

製造業DX推進担当者のための、失敗しない導入の進め方

株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

その背景には、製造業のDX推進担当者が直面しやすい共通の「壁」があります

本ガイドでは、1.～5.で各「壁」の乗り越え方を解説し、6.で社内展開の6か月ロードマップをまとめています。

壁 1	壁 2	壁 3	壁 4
成果につながる 導入の進め方がわからない	定着するか心配がある	運用負担が増加しそうで 不安がある	情報漏えい・ セキュリティが心配
			
・自社に合った導入方法がわからない ・どの業務から始めるか判断できない	・社員が本当に使いこなせるか不安 ・一部の人の「お試し」で終わりそう	・モデルのバージョンアップ対応が大変 ・社員からの問い合わせが増える懸念	・データ・ノウハウの流出が怖い ・取引先からの指摘に答えられるか不安

このガイドで解決できること

- | | | |
|----------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 生成AI導入が進まない理由がわかる | 2. 成果が出る業務の選び方がわかる | 3. 定着につながる進め方がわかる |
| 4. 運用設計の方法がわかる | 5. セキュリティの整え方がわかる | 6. 6か月ロードマップで動き出せる |

成功の鍵は、「とりあえずツールを入れる」から、「現場業務を見据えた課題整理から始める」への発想の転換です

生成AI導入が進まない企業が陥る落とし穴



ツール先行の導入

業務課題を整理せずにツールを選定。
現場ニーズとずれてすぐ使われなくなる。



目的なきPoC

「何となく試してみた」だけで終わり、
成果が定義されていないため評価できない。



IT部門だけで推進

現場部門が関与しないため、導入後に
「使い方がわからない」が続出する。

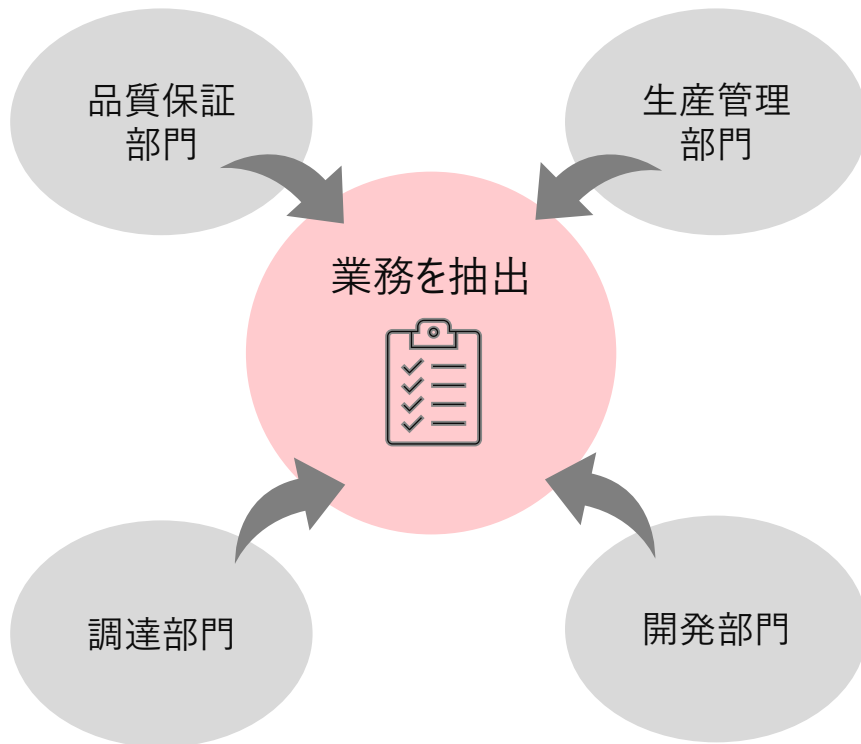
生成AI導入が成功する企業と失敗する企業の違い

観点	失敗する企業の傾向	成功する企業の傾向
スタート方法	ツール選定から始める	課題整理から始める
業務選定	全社一斉導入をめざす	成果の出やすい業務を絞る
推進体制	IT部門が単独で推進	現場 + IT部門が協力
成功定義	「ツールが使える」で終了	「成果が出る」まで推進
ノウハウ	個人のスキルに依存	成功事例を組織に共有

2. 成果が出やすい業務の見つけ方

組織全体での活用を想定し、「高頻度・人数が多い・定型的」業務の中から選定しましょう

①各部門から日々の業務を抽出



②生成AI適用の効果度で優先順位付け

AI適用評価フレームワーク（ミニチェック）

反復性	同じ作業を週3回以上行うか？	☐ はい ☐ いいえ
情報参照	過去資料・マニュアルを頻繁に検索するか？	☐ はい ☐ いいえ
文書作成	文章・レポート作成に時間がかかっているか？	☐ はい ☐ いいえ
属人性	特定の人しかできない業務になっているか？	☐ はい ☐ いいえ
量	月の処理件数が多く、残業の原因になっているか？	☐ はい ☐ いいえ

3つ以上「はい」が当てはまる業務が最初の一手の有力候補です

たとえば、下記のような業務で生成AIが活用されています

製造業で生成AIが活用されている業務カテゴリ

1	問い合わせ対応の自動化	品質保証・調達部門への問い合わせをAIチャットボットで自動応答。
2	設計・技術ドキュメント作成	仕様書・報告書・提案書のドラフトを生成AIが作成。
3	品質異常レポートの分析	過去の異常履歴をAIが検索・分析し、原因特定と対策立案を支援。
4	社内ナレッジ検索	マニュアル・過去事例をAIが横断検索。ベテランの「暗黙知」を組織知として活用。
5	議事録・報告書の自動作成	会議音声や手書きメモからAIが自動で議事録・報告書を生成。

現場に対して、導入効果・操作方法・具体的な使用例を提示しましょう

導入後は利用状況をモニタリングし、現場にヒアリングを行いながらユースケースを拡充していきます。この「PDCAサイクル」によって、生成AIの定着を実現します。

1

生成AIの導入効果と操作方法を、現場に対して説明します。

- ▶ [当社の生成AIソリューション] 操作教育支援を含む「伴走支援」を活用できます。

2

現場部門の業務に照らし合わせた活用例を展開します。

- ▶ [当社の生成AIソリューション] 業務でよく使われるプロンプトをまとめ、クリックで呼び出せる「アプリケーション」を標準提供しています。

3

現場へのモニタリングやヒアリングで日々状況を確認し、活用促進につなげます。

- ▶ [当社の生成AIソリューション] クレジットの利用量や統計情報を管理画面で確認できます。

運用フェーズで発生しがちな「想定外の負荷」を防ぐためには、ツールの選択が重要です

⚠ モデルのバージョンアップ対応

AIモデルが更新されるたびに社内アナウンスや再テストが必要になり、IT部門の工数を圧迫する。

✓ 解決策：常に最新モデルへ自動で切り替わるツール

最新モデルへの自動切替機能を活用。バージョンアップや社員へのアナウンスの手間を軽減できます。

⚠ 社員からの問い合わせ増加

「うまく使えない」「こんな使い方はOK?」という問い合わせがIT部門・推進担当者に集中する。

✓ 解決策：シンプルなUIで、迷わず操作できるツール

直観的なUIを採用したツール選定 + FAQ・ナレッジベースを整備し問い合わせを自己解決へ。

⚠ 利用状況が把握できない

誰がどれだけ使っているか不透明なため、効果測定や費用対効果の説明ができない。

✓ 解決策：クレジットの利用状況が把握できるツール

管理画面で利用量・業務別統計・時間別利用状況をリアルタイムに可視化する仕組みを導入。

セキュアな生成AIを選択することで、安心して利用できる環境が実現します

セキュアな生成AIの選び方：社内データを守る5つの保護ポイント



学習利用なし

- ▶ [当社の生成AIソリューション] 入力データはAIモデルの学習に使用されません。



暗号化送信

- ▶ [当社の生成AIソリューション] 入力内容は暗号化された状態で外部LLMに送信されます。



ログ管理対応

- ▶ [当社の生成AIソリューション] 利用ログを適切に保存。監査・内部統制にも対応します。



第三者非開示

- ▶ [当社の生成AIソリューション] 入力データがサービス提供者や他社に開示されません。



第三者への再利用なし

- ▶ [当社の生成AIソリューション] 入力データが第三者への回答に再利用されません。

「一気に全社展開」ではなく「段階的拡大」が成功の鉄則です

1か月目

検討・準備

- ・ 課題整理
- ・ 対象業務の絞り込み
- ・ 生成AI基礎教育

2～3か月目

PoC実施

- ・ 対象業務のプロンプト・アプリケーション構築
- ・ 現場担当者によるトライアル
- ・ 改善点の洗い出し（ヒアリング）

4～5か月目

展開・定着

- ・ 全社展開
- ・ トレーニング実施
- ・ FAQ・ナレッジ整備

6か月目以降

最適化・拡大

- ・ 利用状況の効果測定
- ・ 次の対象業務の選定
- ・ 個別システム開発検討
- ・ 継続的な改善サイクル

各フェーズのつまずきポイントと
リカバリー策



PoCが終わらない

✓リカバリー策

期間と成果の判断基準を事前に設定。
「完璧」を求めず「使えるか」で判断する。



現場が使ってくれない

✓リカバリー策

上位管理職からのトップダウンメッセージ
発信 + 業務で使う場面を具体的に示す。



コストが膨らんだ

✓リカバリー策

管理画面でクレジット使用状況を定期モニタリング。

当社の生成AIは、直観的UIで無理なく操作できます。目的に応じた最適なLLMの選択と、プロンプトのアプリケーション登録で、活用の幅がさらに広がります。

「AIプラス 生成AIソリューション」の特長

マルチLLMで、複数のAIを使い分けられる

GPT・Claude・Geminiなど主要モデルに対応。
目的に合わせて最適なAIを選んで使えます。

いつも使うプロンプトを簡単にアプリケーション登録し共有できる

効果のあった使い方をアプリケーションとして作成・公開できるため、AI活用のノウハウが組織全体に広がります。

管理画面でクレジットの使用状況や活用度を確認できる

生成AIの利用量や業務別の統計情報を管理画面で確認。
社内の活用状況や効果測定に役立ちます。

議事録作成や画像生成といった、業務にすぐ使える機能を標準搭載

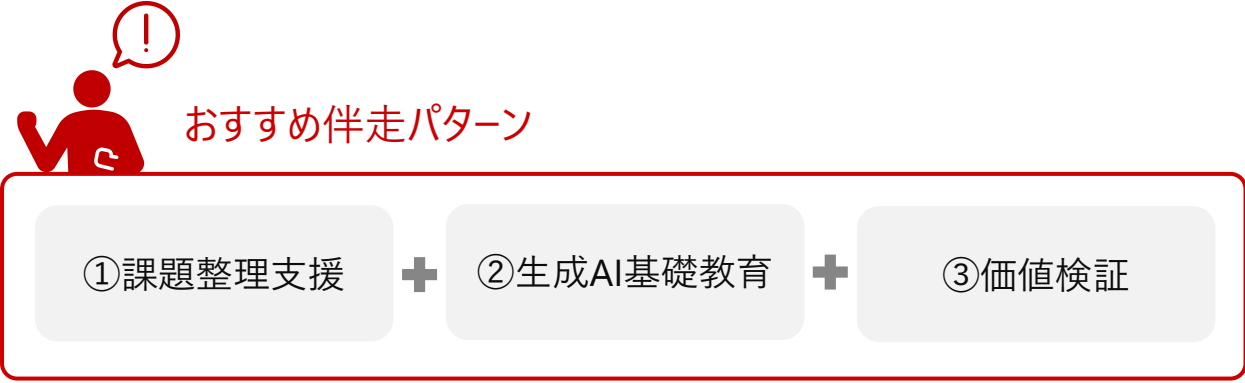
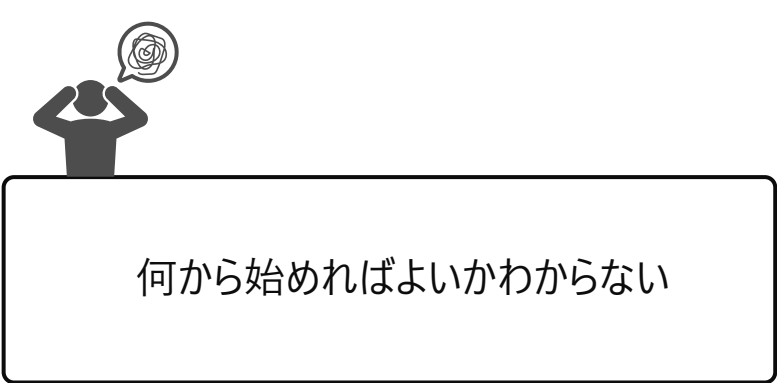


情報を収集・分析しレポートを生成するリサーチツールなど
目的に応じた最適なツールを選択可能

課題に合わせて必要なサポートを組み合わせるオーダーメイドの伴走支援で、お客さまの運用負担を軽減します

当社が提供する「オーダーメイド伴走支援」

課題整理支援	生成AI基礎教育	価値検証支援	個別システム開発
お客さまの業務を整理し、生成AIを活用できる場面を可視化。ヒアリング・ワークショップを支援します。 	生成AIでできることや活用事例を紹介。生成AI環境を活用するハンズオン（ライティング基礎講座）を実施します。 	業務課題の解決策を実証するPoCを支援。PoC環境の構築など技術的なサポートもご要望に応じて提供します。 	価値検証で効果が認められた業務に最適化されたシステムを、既存システムとの連携も考慮して構築します。 



生成AIは「ツール導入」ではなく「働き方の変革」です

生成AIの真の価値は、ツールを使い始めた瞬間ではなく、現場の業務に定着し、社員が自ら活用を広げるようになった時に発揮されます。「使える生成AI導入」にご関心ありましたら、お気軽に当社までご相談ください。

■お問い合わせ先

株式会社日立ソリューションズ・クリエイト

・メールでのお問い合わせ

hsc-contact@mlc.hitachi-solutions.com

・Webでのお問い合わせ

https://www.hitachi-solutions-create.co.jp/solution/generative_ai/

■お問い合わせ情報について

ご相談、ご依頼いただいた内容は回答などのため、当社の関連会社（日立ソリューションズグループ会社）および株式会社日立製作所に提供（共同利用含む）することがあります。

取り扱いには十分注意し、お客さまの許可なく他の目的に使用することはありません。

■他社商品名、商標などの引用に関する表示

- GPTは、OpenAI OpCo, LLCの商標または登録商標です。
- Claudeは、Anthropic, PBCの商標または登録商標です。
- Geminiは、Google LLCの商標または登録商標です。

■サービス・製品の仕様に対する表示

本資料に記載しているサービス・製品の仕様・価格は、2026年8月時点のものです。
サービス・製品の改良などにより予告なく記載されている仕様が変更になることがあります。

Hitachi Solutions Create

HITACHI

AIプラス 生成AIソリューション

生成AI導入完全ガイド

製造業DX推進担当者のための、失敗しない導入の進め方

株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

HITACHI